

関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会参加報告

第53回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会群馬大会が、関東甲信越地区から1400名の副校長・教頭が参加し、平成24年11月8日・9日の両日、群馬県前橋市・渋川市で開催された。

「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」を研究主題とし、「自立・創造・共生の輪を広げ、未来へ躍進する学校づくり」をサブテーマに、14の分科会で提言と討議が行われた。

分科会では、「教育行財政に関する課題」に参加した。

栃木県から「子どもが生き生きと活動できる小中連携と行政との連携・協力」、群馬県から「教育県境整備の改善・充実のための教頭の在り方」の2つの提言があり、それを受けて10のグループごとに協議及び意見交換が行われた。

栃木県塩谷地区教頭会の提言は、子どもたちが生き生きと活動するための小中連携の在り方及び、行政との連携・協力の在り方についての研究を進める中での教頭の関与性を明らかにしていこうという発表であった。小中の連携を深めるとともに保護者や地域、行政との連携という視点での研究実践を中心に発表された。グループ討議の中では、小中連携の実態等について各県の状況について意見交換した。さらに、小中教員の交流についても意見交換した。その中で、群馬県では小中の教員交流が盛んに行われているので、それぞれの状況をよく把握した上で小中連携を進めているという報告があった。

群馬県北群馬郡教頭会の提言は、新校舎建設・移転に伴う新たな教育環境における危機管理体制の改善・充実を図るため、さらに、安心・安全な学校づくりを推進するための教頭の在り方を明らかにするという研究であった。報告された内容は、校舎の新築・移転に関わり、工事中の安全確保のために、教頭が学校側窓口として、工事関係者・教育委員会関係者と日常的に連絡を取り合い、さらには、騒音や振動、悪臭等の問題の未然防止にも取り組んだという内容であった。グループ討議では、危機管理体制の構築のために行政とどのように連携しているかを中心に意見交換を行った。昨年の大震災の状況などを報告し合いながら、学校が地域の避難所となった場合の準備は整っているのだろうかということで、それぞれの地域の実状を報告し合った。千葉県鎌ヶ谷市の中学校では、昨年の利根川からの水道水取水停止による給水車の例が報告され、行政関係者の機動性には限界があり、緊急時には、学校職員が対応しなければならず、とても混乱したということであった。

指導助言者からは、小中連携の重要性について、多くの教職員がその必要性について十分に理解できているのだが、組織的に実践となると思うように進められていないという現実があると、分析があった。そこで、教頭が組織的に関わりながら小中の連続性をいかに確保していくかを研究してほしいと指導があった。また、校舎の移転等に関わっては、教頭が関係者と綿密な打ち合わせを行うことで、学校組織を効率的に動かしながら作業を進行させ、安全確保も可能となる。危機管理体制の在り方を考えたとき、常に危機意識を持ち、臨機応変で的確に対応ができるよう、関係機関と連携を図る役割が教頭に求められていると指導があった。

(学校運営研究部会 田辺康仁)